

同時通訳の最前線から

鶴田 知佳子

1. 通訳の仕事とは？

■ 通訳の心構え

守秘義務
専門職としての知識
通訳者の役割

■ 通訳の3つのプロセス

聞き取り
理解
表現

どこにウェイトをおくのか？

■ 言葉の基本は語彙と文法 ⇒ 理解と表現の両方に関わる。

2. 演奏とのアナロジー

■ 翻訳家・別宮貞徳先生

⇒ 『芸術としての翻訳—演奏とのアナロジー』

■ 翻訳家・山岡洋一さん

⇒ 「辞書を引くのは確認のため」

Q：なぜ、オリジナルは1つなのに複数の訳があり得るのか？

A：通訳者は作曲家ではなく演奏家。

聞く皆さんの評価にゆだねることとなる。

3. どうやったら上達するのか？ 上手な通訳とは？

■ 鑑識眼は必要であるが、鑑識眼があるというのと通訳ができるのは別問題。

■ 上達するには常に自己モニタリングが必要。

通訳日誌を書いているのは自己反省をして、次につなげるため。

何ができなかったのか？

何が原因？

どうすれば克服できるか？ など

参考：鶴田知佳子の通訳日誌

<http://kotoba-asobi.net/tsuruta/>



- 自己モニタリングの中心
情報量と正確性

- 反省の重要性
演奏活動をしている限りは常に反省をする必要がある。

- 基本語の大切さ
河原先生との共著書は、私なりに出した知恵の一つの例。
⇒『同時通訳の最前線から学ぶ ここまで使える超基本単語 50』

- 実際の例（デモンストレーション）
英→日：基本語でひっかからないように
日→英：伝えたいことが基本語で言える

*今日は語彙にフォーカスしているので、サイトトランスレーション(sight translation)という文法チャンクの上での非常に大事な話は別の機会に。

4. プロとしての奮闘ぶり — 質を維持するのは大変！

- どう練習をしていけばいいのか？
1つの答え⇒「基本語から考えること」

- 文法についてはサイトラ
同時通訳はオンライン処理を行っている。
細かい微調整も常に必要

- 情報のインプット

- 表現を磨く

*通訳の基本⇒スピーカーが何を伝えたいのか、何を言いたいのかを伝えることを常に頭の中に置くこと。何でもそうだが、基本がいちばん大切。

5. 通訳者の条件

言語能力のほか…



など